

Enriched Culture

美を変革する力で新たな価値を創り、心豊かな未来へ。



1. 創業以来の企業文化を受け継ぎ、未来の成長に活かします。

私たちは 150 年に及ぶ企業活動の中で、商品や宣伝制作物などをはじめとする新しい価値や企業文化を生み出し、現在まで受け継いできました。

資生堂企業資料館では、この企業資料を広く社外に公開しており、資料貸出や調査協力などを通じて国内外の多くの方々に日本の美意識や化粧文化を知る資料としても発信しています。2022 年に迎える創業 150 周年に向け、企業文化や DNA を社会の共有資産として新たな形で公開していきます。

また、グローバル化が進み多様化する社員に向けては、創業の理念や DNA を深く学ぶための企業文化の継承を強化していきます。アーカイブデータベースなどデジタル化を推進し、資生堂グループ社員のロイヤルティと新たな価値創造力の向上につなげることで、私たちが目指すビューティーイノベーションを加速させます。

2. 美の感性を探求・発見し、日本発の新たな価値を創造・発信します。

1919年に創設し現存する日本最古の画廊といわれる資生堂ギャラリーの活動を中心に、私たちは「新しい美の発見と創造」に取り組み、日本の芸術文化の振興に寄与してきました。

資生堂ギャラリーでは今後も、新しい美を創造する象徴的な活動として、新進アーティストを発掘・紹介する公募プログラム「shishido art egg」を継続し、多様なアーティストと共創を行っていきます。

また、掛川市の資生堂アートハウスでは、資生堂ギャラリーの展覧会作品の一部を一般に向けて公開しています。この活動を通じて、地域の次世代育成や文化振興に貢献していきます。

1937年創刊の企業文化誌『花椿』は、現在は季刊誌とWEBの2つのメディアで、美しく心豊かに生きるヒントをお届けしています。今後は英語・中国語版を定期発行し、日本発のビューティーカンパニーとして、その美意識を世界に発信していきます。

2019 年実績

1. 創業以来の企業文化を受け継ぎ、未来の成長に活かします。

1-1 資生堂の企業文化発信・伝承活動の強化

当社の歴史と美の資産である香水瓶コレクションなどの商品を国内の美術館や文化施設に積極的に貸出し展覧会の開催に協力しました。また歴代の広告や化粧文化に関する資料をメディアに提供することにより、雑誌・書籍などで広く紹介されました。

社員に対しては、資生堂の企業理念や企業文化を学ぶことで会社に対するロイヤルティを高めることを目的に、資生堂企業資料館での見学・研修を強化するとともに、全世界の社員が資生堂の DNA を学ぶことができる映像素材を人事部と協働で制作しました。



1-2 日本橋高島屋 S.C. での資生堂展開催

2019 年 9 月 18 日～ 29 日、日本橋高島屋 S.C. において高島屋とのコラボレーションによる初の展覧会「美と、美と、美。－資生堂のスタイル－」展を開催しました。資生堂の歴代の広告や香水瓶をはじめとした商品などの展示を通じて、当社のモノづくりの根底に流れる美意識を紹介しました。多くの方に来場いただくとともに、SNS（Twitter、Instagram、Facebook など）を通じて拡散され、若年層を中心とした新たなお客さまとの出会いにつながりました。



2. 美の感性を探求・発見し、日本発の新たな価値を創造・発信します。

2-1 資生堂ギャラリー支援美術家の芸術選奨受賞

資生堂ギャラリーは、2019年に100年を迎えました。現存する日本最古の画廊といわれ、現代アートの新進アーティストに活躍の場を与えてきた資生堂ギャラリーは、2018年に開催した「蓮沼執太：～ing」展の成果により蓮沼執太氏が、2019年の第69回芸術選奨「メディア芸術部門」文部科学大臣賞メディア芸術新人賞を受賞しました。また、これまで支援してきた美術家小沢剛氏、内藤礼氏が、同賞「美術部門」文部科学大臣賞を、石上純也氏が、同賞新人賞を受賞しました。



2-2 季刊誌『花椿』のグローバル化・ウェブ花椿コミック『ダルちゃん』の話題化

季刊誌『花椿』は、4月の新しい研究所のオープン、7月の資生堂アネッサレディスオープンなど新たな企業活動と呼応したテーマで、年間4号発行され、美しく豊かに生きるためのヒントを若年層を中心に多くのお客さまにお届けしました。夏号からは英語版も発行、欧米5都市での配布を開始し、資生堂の美意識をグローバルに発信しています。また2018年にウェブ花椿で連載したコミック『ダルちゃん』は、連載終了後、小学館より単行本として出版され、10万部を超えるヒットとなり、さまざまなメディアでも紹介されるなど大きな話題となりました。



© はるな檸檬

2-3 S/PARK ミュージアムのオープン

2019年4月横浜にオープンした新しい研究所、資生堂グローバルイノベーションセンターの2階にあるS/PARK ミュージアムは、「美のひらめきと出会う場所」をテーマに、研究所ならではの最先端技術に触れて知ることができる体験型ミュージアムとなっています。ミュージアム内のFuture Zoneでは未来の美を感じさせる来館者参加型のコンテンツを展示し、2019年は約5万人に来場いただきました。



2-4 アートを活用した社員の美意識醸成

資生堂ギャラリーや資生堂アートハウス、協賛した展覧会を活用して、社員の美意識や発想力を養うプログラムを開催しました。2019年は、資生堂ギャラリーの第6次椿会※作家の塩田千春氏の大規模個展「魂がふるえる」展(森美術館・東京)の鑑賞や、アートハウスで開催した「第二次 工藝を我らに」の出展作家による鼎談を行いました。



《不確かな旅》

2016 / 2019 年

鉄枠、赤毛糸

サイズ可変

Courtesy: Blain|Southern, London/Berlin/New York

展示風景：「塩田千春展：魂がふるえる」森美術館（東京）2019 年

撮影：Sunhi Mang

画像提供：森美術館

※「椿会」は、第二次世界大戦で一時的に中断していた資生堂ギャラリーの活動を再開するにあたり、平和、復興、日本の芸術文化の顕現を願い誕生したグループ展です。資生堂のコーポレートマークである花椿にちなんで「椿会」と名づけられ、1947年の初回以来、時代とともにメンバーを入れ替えながら、資生堂ギャラリーを代表する展覧会として、70年以上にわたり継続してきました。2017年に終了した第七次椿会まで、合計86名の作家に参加いただきました。